

刊行にあたって

このパンフレットは、二〇〇八年三月より一年間計八回にわたり、伊藤藤晃さんを常任コメンテーターにお迎えして、反天皇制運動連絡会で行った「どうして続くのか 天皇制——象徴天皇制問題基礎講座」（於：ピブルズ・プラン研究所）をまとめたものです。

講座をはじめにあたって、ご案内した広告リーフレットでは次のように紹介しています。

「デンノウセイ」と耳にしたことはあっても、その中身はよくわからないという人も多いでしょう。この連続講座は、そんなあなたとともに、天皇制の問題を基礎から理解することを目指します。

天皇制に対して、「何が悪いの」という人から「違和感はあるけど……」という人まで、もちろん反天通のあなたも、この講座できっと新しい発見が得られるはず。

日本近現代史研究者の伊藤晃さんをお招きし、反天皇制運動二五年の反天連がその経験と蓄積を踏まえて企画したこの連続講座。素朴な疑問からマニアックな問題まで、一緒に考え、頭スツキリさせませんか。

I 象徴天皇制のしくみ…憲法第一章

第1回 象徴天皇制とは…なぜ日本は天皇制なのか

■二〇〇八年三月二十九日（土）

象徴天皇制とはどこで規定されどどういう制度なのでしょう。また、

戦前の天皇制とはどのようなつながり、切れているのか……。戦前・戦後の憲法制度の実態、国民主権のあり方を天皇制が規定しているさまを読み解き、象徴天皇制を解読していきます。

第2回 天皇制の現実…憲法第一章（1条～8条）はどのように読むべきか

■二〇〇八年五月二十四日（土）

憲法上では天皇の存在はどう説明され、現実はどうなっているのでしょうか。よくいわれる天皇制の違憲性とは具体的にはどういうことでしょうか。また、皇室典範や皇室経済法はなぜあるのでしょうか。私たちと天皇の人権とは？ 象徴天皇制の現在を具体的にみていきます。

II 天皇制の今と昔…歴史認識の現在を問うために

第3回 天皇制と国民国家…近代の天皇制国家とは

■二〇〇八年七月二十六日（土）

世界史に列強国として登場するために、一九世紀末、日本は天皇制国家をつくりあげました。その形成のプロセス、天皇制のシステムとイデオロギーが日本の国民国家形成にどのような力もち、その後、どのように変貌していくのか、読み解いていきます。

第4回 戦後の人間象徴天皇制…戦争責任とどう向きあってきたか。

■二〇〇八年九月二十七日（土）

戦後天皇制は主体的に変貌し、戦争責任を回避していく歴史をあゆみみず。米国による占領支配や東京裁判の影響、アジア外交と個人補償切捨ての問題など、歴史に対する向きあい方とその問題について、現在のな問題に繋がるように具体的に見ていきます。

Ⅲ 天皇制と「民主主義」：メディアと天皇制の問題

第5回 天皇一家へのまなざし：メディアはどのように扱っているか

■二〇〇八年一月二日（土）

天皇一家は例外なく常に特別扱いされ、敬語で語られ、誕生日や海外旅行のたびに記者会見をしたりします。マスメディアが当然のように流す「皇室情報」から天皇制のもつ身分差別や、そこから派生するさまざまな差別構造を読み解き、天皇制と「民主主義」について考えます。

第6回 「民主主義」という名の天皇制：天皇は一体なにをする人ぞ

■二〇〇九年二月二四日（土）

天皇には特別のロイヤルボックスが用意され、「おことば」も述べます。「皇室外交」などでは、まるで元首のようです。また、「お世継ぎ」や「Xデー」が日本中大騒ぎとなる大事件としてあります。世襲制の絶対権威者としての身分を持つ天皇と民主主義の問題を具体的にみていきます。

Ⅳ 天皇制はなぜ続く：天皇制と「民主主義」は共存するのか

第7回 天皇制が続く合理的な理由はあるのか？

■二〇〇九年三月二八日（土）

天皇制の存続について納得のいく理由がはたしてあるのでしょうか。

民族アイデンティティとして機能する天皇制は差別・排外主義を生み出しています。戦争責任もとらず、戦争国家の象徴としてある天皇が「平和天皇」と呼ばれています。人権・平和憲法との不整合性の問題もあります。憲法規定からすら逸脱している天皇制の現実があります。そして、それを受け入れ続ける日本社会の問題という、一番やっかいな問題が最後に残ります。ここでは戦後民主主義の思想史という枠で天皇制の問題を考えます。

第8回 全体でディスカッション

■二〇〇九年三月二八日（土）

講座全体を振り返りながら、「天皇制はなぜ続く」を大きなテーマに、参加者、報告者、「メンテーター全員でわいわい討論しましょう。」

第8回の「全体でディスカッション」以外の回をパンフレットにまとめました。反天連のみんながそれぞれに勉強し報告するというスタイルで行ったため、回によって発表内容にバラツキがあったり、当初の企画より内容が少し難しかったような気もしますが、毎回の講座の後のささやかな交流会も含め、私たちは無理をしても講座を開催してよかったです。

予想外に大部のパンフレットになりましたが、天皇制問題の基礎的な部分の理解に役立てていただければ、と思います。そして、今後またこのような機会をもてるように努力していきたいと思っています。

反天皇制運動連絡会

二〇一〇年四月二五日